



宣言から1年を迎えた 香川大学ができること

香川大学 副理事
ダイバーシティ推進室
室長 法学部教授
柴田 潤子



香川大学
ダイバーシティ推進室
コーディネーター・特命講師
黒澤 あずさ



D&I Festa 2022

フェスタ開催の きっかけと目的

柴田「このフェスタは2021年10月に、香川大が「D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）推進宣言」をしてから1周年を節目に、開催した啓発イベントです。2022年4月にダイバーシティ推進室が発足して、その後学内で、D&Iに関するアンケートを採りましたが、関心は高いものの分野によって認知度にかなりばらつきがあることが分かりました。そこで、学生・教職員の理解をより深めてもらうと共に、推進室の広報も兼ねて、このイベントを開催することにしました。」

イベントの手応えと 今後の展望

柴田「フェスタではセミナーやランチトークなど啓発活動につながるイベントを各種開催しましたが、中でも注目度が高かったのがトランスジェンダーの方のセミナーで

す。当事者から直接お話を聞けるということ、とてもインパクトがあり、学生も多数参加していました。また共感することが多かったのか、セミナー後も多くの質問が寄せられていました。第2部のパネルディスカッションに、パネリストとして農学研究所と教育学部の学生に参加していただいた点も良かったと思います。黒澤「メタバースを使ったトークイベントも行いました。匿名での参加が可能で、今回のテーマには適していると思いました。また、香川大は分散キャンパスで各キャンパス間の距離が離れていますが、メタバースであればそれも関係なく開催できました。」

柴田「今回のフェスタは、推進室とバリアフリー支援室、保健管理センター、インターナショナルオフィスが協働して実施しました。今後も、車椅子体験やグローバル・カフェでのイベントと連携できたらと考えています。黒澤「他にも、デジタルスタンプラリーを行いました。D&Iに関する学内スポットを巡ると、D&Iのロゴの入ったオリジナルエコバッグがもらえる企画です。ロゴやバッグのデザインは、創造工学部の学生が担当、アプリも開発科

学研究所の学生に作ってもらいました。このバッグがきっかけで、D&Iが多くの人の目に触れることを期待しています。柴田「D&Iとは、多様性をみんなが認め合い受け入れて誰もが自分らしく活躍できるようにすることです。今回のフェスタは初の試みでしたが、D&Iについて関心を持っている学生も多いと感じました。そうした学生と共に私たちが一緒に考え、学生主体の取組に繋がればと思っています。」



エコバッグ
Get!!

トークを通じて、 お互いの多様性を 再認識する



D&I ランチトーク



香川大学法学部教授
平野 美紀

2022年10月に幸町キャンパスにオープンした「D&Iスペース」。そのお披露目を兼ねて「D&Iランチトーク」を行いました。1回目のテーマは「ワークライフバランス」。企画総務部篠原正行次長と教職員で、それぞれワークライフバランスについてどのように捉えているか、仕事とプライベートの切り替えをどのようにしているかなどをさくくばらんに話し合いました。2回目は「性的同意」をテーマに、法学部平野美紀教授によるレクチャーのもと、学生トークイベントを開催しました。どちらも多くの参加者が集まり、活発な意見交換がなされました。特に「性的同意」については、普段親しい間柄でも触れることが少ないテーマですが、参加者は積極的にディスカッションしていました。それを平野教授が「性的同意を伝えられる、拒否できる関係性をどう作るのか」といった問いかけや法律の知識も交えたサポート。学生同士でも考え方に多様性があることを学ぶ機会になりました。」

ピア・ サポート

INTERVIEW

香川大学のバリアフリー支援室では、障がいのある学生の支援を学生が担当する「ピア・サポート」を行っています。実際にピア・サポーターをされている長谷川さんにお話を伺いました。



バリアフリー
支援室について

将来、特別支援教育に携わりたいと思い「ピア・サポーター」に応募しました。実際にどうサポートするかにも興味があり、自分が先生になった時のためにそれを経験することで、いろんな引き出しを増やせるのではないかと思います。私が担当しているのは聴覚障がいのある学生への2つのサポートです。その一つが「パソコンノートテイク」。聴覚障がいのある学生はオンライン授業のとき、先生の話を音声認識アプリで文字起こししています。私はその際の誤変換部分を手動で修正します。担当している授業は週1コマですがライブ配信なので、トラブルが起きた場合で



香川大学 教育学部学校教育教員養成課程4年
香川県立丸亀城西高等学校出身
長谷川 凛乃

もチャットで状況を伝えることができ、担当している学生に喜ばれています。もう一つは、授業で使用する動画の字幕付け。字幕が必要な動画を先生から受け取り、字幕を仕上げます。より分かりやすい字幕にするために、無音の状態を確認するよう心がけています。支援が必要な方ごとに、求められるサポートは変わります。「ピア・サポーター」は必要に応じて車椅子移動支援やキャンパス内のバリアフリーの点検など、様々な活動を行っています。またバリアフリー支援室では「アクセシビリティリーダー（2級）認定資格の取得も推進しており、個人の多様性を良く理解し、社会参加を支援する人材として毎年多くのサポーターが資格を取得しています。」

